

焼津市内の特定外来生物「オオフサモ」について

(令和7年度焼津市内特定外来生物オオフサモ防除・意識啓発推進事業業務 簡易報告書概要版)

焼津市内の一部の水田や用水路では近年、特定外来生物オオフサモが見られるようになりました。オオフサモは水草で、在来水生植物と競合して駆逐するため、全国的に駆除されている植物です。

【特徴】

雄と雌で別の株ですが、日本に生育するのは雌のみで、種は付けません。水面より上の葉は細かく分裂し茎の周りに輪状につき、白っぽい緑青色です。水中の葉は茶褐色または薄い緑色です。

根茎を延ばして広く増えますが、根茎が切れても節から根を出して再生し、上部の茎が切れても流れ着いた先で再生します。焼津市のような暖かい地域では冬でも枯れずに越冬します。



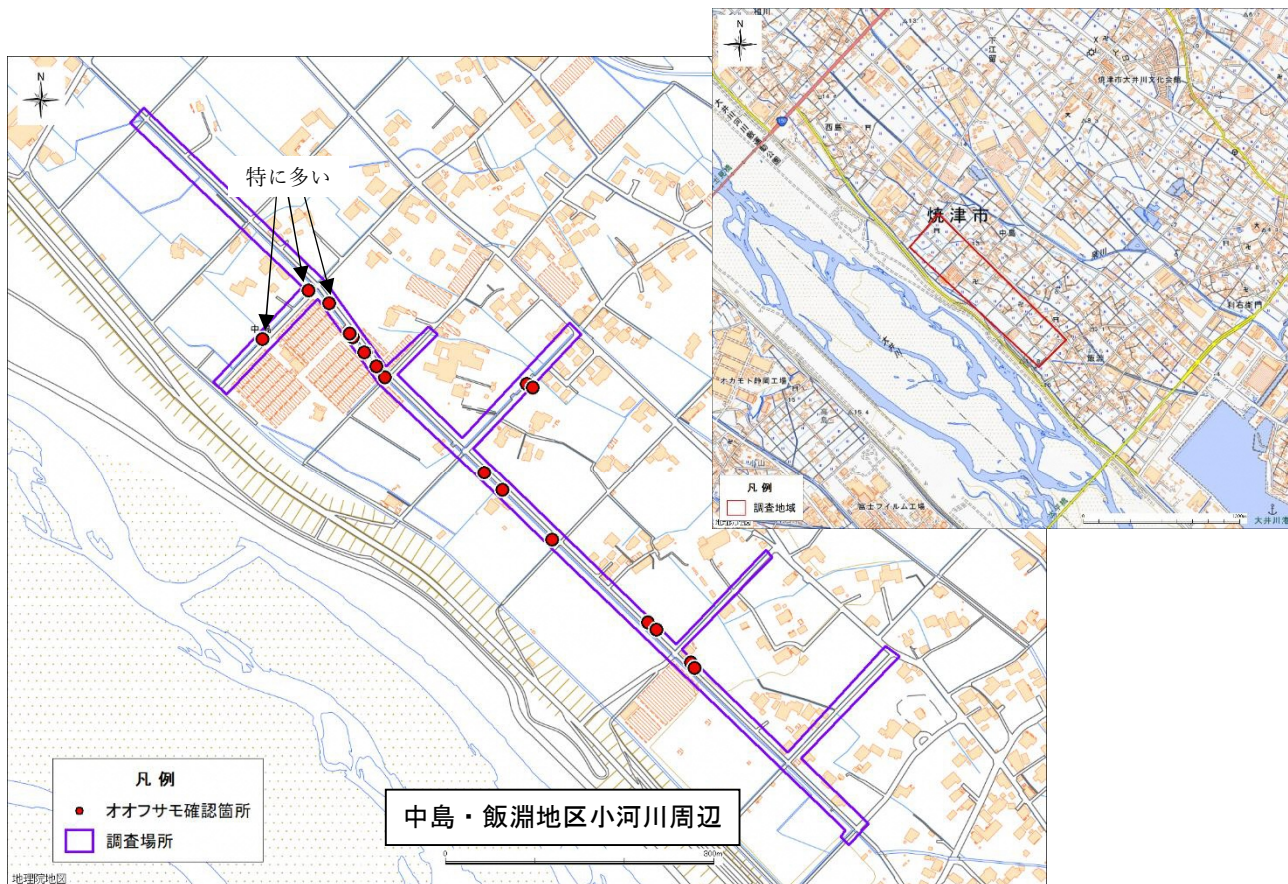
オオフサモ



焼津市内の生育箇所

【主な分布位置】

令和7年度に、焼津市内の主な群生地で、分布調査を実施しました。



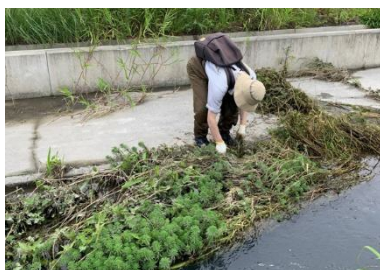
オオフサモを見つけた場合は、防除にご協力ください。

【防除方法】

防除方法には、根からの抜き取り（人力での抜根）、重機での剥ぎ取り、除草剤の使用などがありますが、焼津市の生育箇所には、ナガエノミクリなど他の植物の生育に影響を及ぼさないために、人力での抜き取りが適していると思われます。

・人力での抜き取り

オオフサモは多年草で、根が残っていると再生し、根や茎の断片からでも再生するため、根こそぎ抜き取る必要があります。根は横に長く伸び、枝分かれが盛んで体積が大きいため、スコップを使用します。また根や茎の切れ端が漂着すると、そこで再生するため、ネットやフェンス等を下流側に設置する必要があります。自治会活動等で小規模に行う場合には日時、範囲、体制や運搬方法などを計画し、事前に回覧版や掲示板等で公表する必要があります。



【運搬方法】

オオフサモは特定外来生物のため、生きたままの運搬が原則禁止されています。そのため、茎や根の断片を落とさないように袋に密閉し、厚手のブルーシートの上に置くなどして、数日間天日にさらして枯死させてから、可燃ごみとして廃棄します。自治会活動等の小規模な防除の場合は、生きたまま運ぶことや一時保管は問題ありませんが、シートなどで落とさないようにして、清掃工場に持ち込みます。

【防除時期】

原則的に早期発見・早期駆除が重要で、小さいうちに除去することが有効です。人力で駆除する場合は、オオフサモの地上部や他の植物が衰弱している冬季が、労力が減るため、効率的な駆除ができます。

オオフサモの生活史・防除適期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
越冬	←→											←→
増殖			←→									
花期				←→			種子をつけない			ため種子繁殖はない		
防除	越冬個体が判別 場所が特定できれば	効率的								越冬個体が判別 場所が特定できれば	効率的	

【類似植物】

オオフサモに似たホザキノフサモという在来植物がたびたび見られます。ホザキノフサモはきれいな河川に生育し、減少傾向にあると推測されています。

ホザキノフサモは、水面より上に葉や茎がない、茎に輪のようにつく葉は常に4枚、でオオフサモと区別できます。



ホザキノフサモ